

Ⅱ 観光振興について

1 提言の背景

(1) 最近の状況

本県は、豊かな自然環境や個性ある歴史・文化、多様な食材など、「本物」の素材に恵まれており、南北600kmに及ぶ広大な県土の中に、美しい自然環境が織り成す四季折々の景観、神話の舞台である霧島連山や世界遺産である屋久島の自然、大島地域の独特の歴史・文化・風土など、多彩な観光資源に恵まれている。

本県への観光客は、大河ドラマ「篤姫」ブームがあり、さらに昨年3月に全線開業した九州新幹線の効果が大きく、関西や中国地域を中心に、これまで鹿児島に来る機会がなかった方が多く訪れているところである。そこで、新幹線全線開業効果を持続し、その効果を県内全域に広げていくことが求められている。

映画・テレビ等のロケ地は全国に向けた情報発信力が高く、観光客の誘致に効果がある。こうした観点から、県は、関係市町村、観光関係団体、映像によるかごしまの情報発信についての調整等の役割を担っている「NPO法人かごしまフィルムオフィス」などと連携しながら、様々な撮影協力等を行っており、今後もフィルムコミッションへの支援が求められている。

また、観光かごしま大キャンペーン推進協議会を中心に、薩摩の戦国大名・島津義弘を取り上げた大河ドラマ制作を求める要望活動を行っている。

このような状況を踏まえ、鹿児島県経済の回復の牽引役となる新幹線効果を持続し、より大きなものにしていくため、観光振興につながる課題等について、検討することとしたものである。

(2) 今後の方向性

① 九州新幹線全線開業効果の県内全域への波及に向けて

本県の観光は、農林水産業と並ぶ基幹産業であり、さらなる振興に取り組むことが求められる。九州新幹線全線開業効果を大隅地域や離島など県内全域に広く波及させ、さらに各地域へ回遊性を高めるため、関係機関と連携を図り、魅力ある観光地づくりや二次交通、観光案内

標識等の拡充など観光基盤の整備に取り組む必要がある。

また、最近増加している中国アジアからの訪日観光客の一層の誘致と、受け入れ態勢整備が求められる。鹿児島を訪れた観光客は、まず鹿児島市を中心に観光することから、点から線、さらには面へ広がる観光基盤の整備が重要である。

さらに、九州新幹線全線開業や交通網整備の進展などで、観光客の周遊の広域化が見込まれることから、地域相互に魅力を補い、高め合うなどの広域的な連携が求められる。

このようなことから、鹿児島を訪れた観光客が、鹿児島市内の観光だけでなく、県内各地域も観光するという回遊性を促進するため、関係機関と連携を図り、季節ごとの各地域の魅力やイベント情報の発信など効果的な観光PRの取組が必要である。

- ② 観光振興と地域活性化に寄与するフィルムコミッションへの支援等
映画、テレビのロケ地の誘致にフィルムコミッションの果たすべき役割は大きいことからその活動を支援していく必要がある。

これらのロケ地は、情報発信力が極めて高く、観光客誘致に効果があることから、鹿児島を舞台とした新たな映画やテレビドラマを制作しやすい環境を整え、本県の魅力発信の機会を増やすことが、本県の観光振興にとって極めて重要である。

昨年、「はやぶさ」の舞台となった肝付町にある鹿児島宇宙センター内之浦宇宙空間観測所においては、映画が公開されると連日、関西などから船などを利用したツアー客が訪れ、役場では旅行会社からロケ地巡りのツアー企画が持ち込まれるなど、大きな盛り上がりを見せ、フィルムコミッションの果たすべき役割が如何に大きいかを示している。

また、平成20年に放映されたNHK大河ドラマ「篤姫」は、本県にゆかりのあるドラマであったことから、本県への宿泊観光客が年間800万人を超えるなど、多くの観光客が鹿児島を訪れ、盛り上がりを見せたところである。

このように鹿児島を舞台とした大河ドラマをはじめとする、テレビドラマや映画等の誘致は、観光振興や経済効果が大きく期待されることから、今後とも積極的な取組が必要である。

以上の観点から、次のとおり提言する。

2 提 言

(1) 九州新幹線全線開業効果の県内全域への波及対策

九州新幹線全線開業効果を持続し、その効果を県内全域に広く波及させるため、点から線、さらには面へ広がる観光基盤の整備に取り組むこと。

また、鹿児島市に訪れた観光客が、県内各地域も観光するという回遊性を促進するため、関係機関と連携の上、県内各地域の効果的な観光PRに取り組むこと。

(2) フィルムコミッションへの支援等

映画・テレビ等のロケ地は全国に向けた情報発信力が高く、誘客や新たな観光地となることが期待されることから、観光振興と地域活性化に寄与するフィルムコミッションへの支援に取り組むこと。

また、観光振興や経済効果が大きく期待される、鹿児島を舞台としたNHK大河ドラマをはじめとするテレビドラマや映画等の誘致に取り組むこと。

参 考

○ 本県における宿泊観光客の動向

1 平成22年

県外延べ宿泊観光客数の地区別構成比をみると、最も多いのが鹿児島・桜島地区の44.0%、次いで指宿・佐多地区の15.6%、霧島地区の13.4%の順となっている。

また、県内延べ宿泊観光客数の地区別構成比については、鹿児島・桜島地区が39.2%と全体の約4割を占めている。

なお、県外延べ宿泊観光客数では、全ての地区で前年を下回った。

(単位:千人、%)

年 地区	県外延べ宿泊観光客数					前年比	県内延べ宿泊観光客数					前年比
	18	19	20	21	22	22/21	18	19	20	21	22	22/21
鹿児島 桜島	2,894 (38.1)	3,059 (38.8)	3,205 (39.3)	3,177 (42.4)	2,948 (44.0)	92.8	783 (38.7)	842 (41.0)	813 (39.9)	804 (39.3)	754 (39.2)	93.8
霧島	1,002 (13.2)	1,035 (13.1)	1,073 (13.2)	986 (13.1)	901 (13.4)	91.4	220 (10.9)	227 (11.0)	220 (10.8)	221 (10.8)	223 (11.6)	100.9
指宿 佐多	1,434 (18.9)	1,435 (18.2)	1,593 (19.6)	1,311 (17.5)	1,044 (15.6)	79.6	136 (6.7)	127 (6.2)	128 (6.3)	129 (6.3)	124 (6.4)	96.1
種子 屋久	553 (7.3)	558 (7.1)	579 (7.1)	487 (6.5)	477 (7.1)	97.9	90 (4.4)	102 (5.0)	78 (3.8)	88 (4.3)	71 (3.7)	80.7
奄美	768 (10.1)	775 (9.8)	757 (9.3)	717 (9.6)	633 (9.4)	88.3	277 (13.7)	292 (14.2)	285 (14.0)	277 (13.5)	305 (15.9)	110.1
その他	943 (12.4)	1,029 (13.0)	941 (11.5)	822 (11.0)	701 (10.5)	85.3	519 (25.6)	465 (22.6)	512 (25.1)	529 (25.8)	446 (23.2)	84.3
合計	7,594	7,891	8,148	7,500	6,704	89.4	2,025	2,055	2,036	2,048	1,923	93.9

注：() 書きは構成比

資料：平成22年鹿児島県観光統計

2 平成23年以降

出典：「鹿児島県観光動向調査」

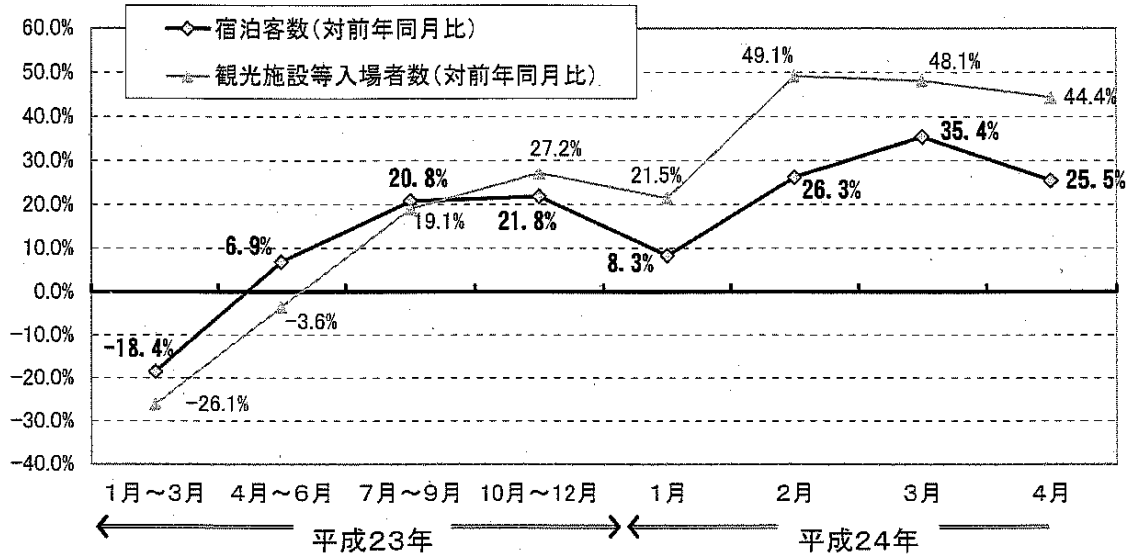
注1：主な施設（87カ所）抽出による毎月調査

注2：平成23年は四半期ごとに前年比の平均

ア 宿泊観光客の動向

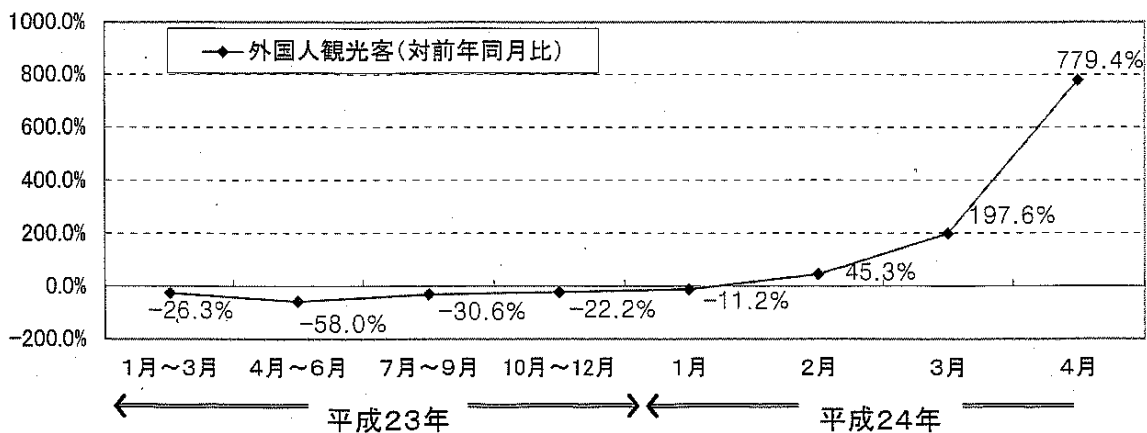
(ア) 宿泊客等の動向 (H24.4)

前年の新燃岳噴火と東日本大震災の影響により宿泊者数が大幅に落ち込んだこととの反動とともに、九州新幹線全線開業効果等により、前年を大きく上回った。



(イ) 外国人観光客の入込の動向 (H24.4)

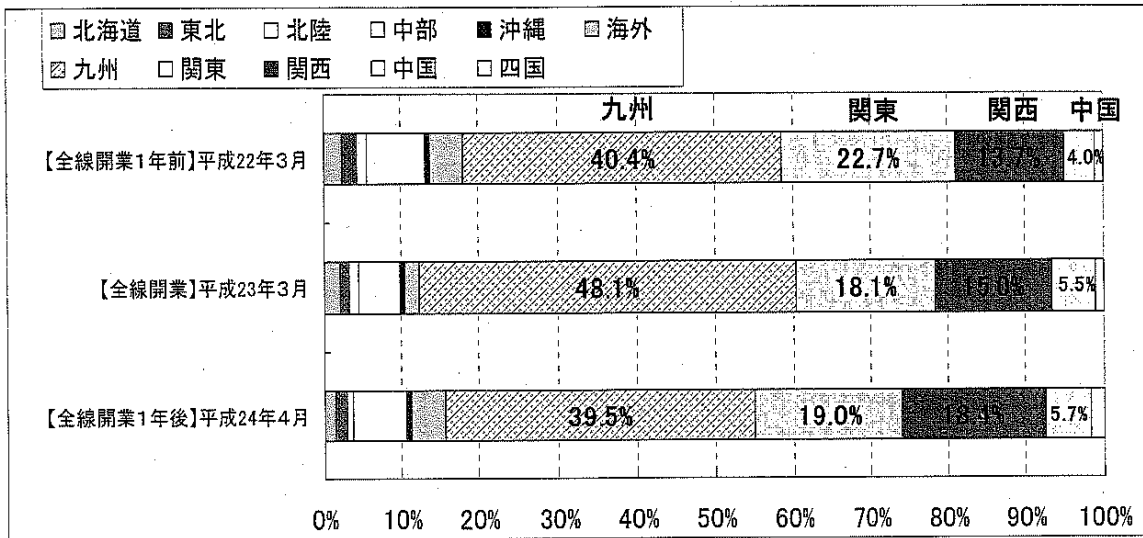
前年の新燃岳噴火と東日本大震災の影響による落ち込みの反動とともに、3月末からの鹿児島-台北線の新規就航で台湾からのツアー客が増加したことなどにより、前年を大幅に上回った。



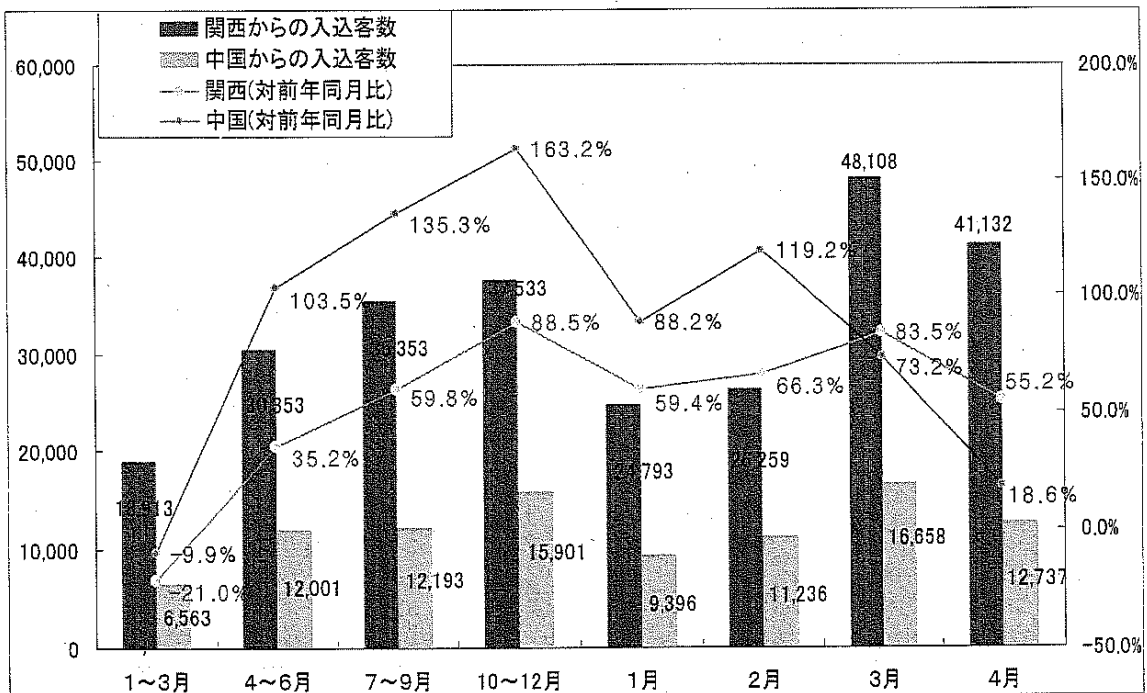
イ 発地別宿泊客の動向

○ 特に、関西・中国からの入込みが前年を大幅に上回っている。

<図1：発地別宿泊客の構成比（推移）>



<図2：関西・中国地区からの宿泊客（対前年同月比）>



(注) 平成23年は、四半期ごとの平均